

大江山地域 第3回ワークショップの概要

◆1.大江山農村環境改善センター

各部屋の位置、大きさ、構造、数、必要な機能、利用状況などを改めて見直し、多様な用途で利用の可能性を探る必要がある。

- 現在の利用状況を見直して整理し、多様な用途での利用を想定した案を作成した方がよい。
- 現在利用率の低い貸室の原因を把握して、将来への変更が可能で多用途な活用ができる部屋が必要。
- ニーズに対応できるように各室の機能は充実させる。
- 規模の縮小は賛成だが、必要な機能や、室の大きさ・数は見直しが必要。
- 料理実習室、小研修室は利用率が低く、保健休養室は部屋があることも知られていないが、和室は子育て世代が使いやすく、授乳室やオムツ替えのスペースにできるなど、各部屋の状況を知ることによって、多様な用途で利用できる可能性がある。
- 料理実習室は活用を広げてほしい。例えば生花教室でもキッチンを活用できる。料理教室などと利用が重なって使えない場合を想定し、簡単な水回りの機能を各室に設置するとよい。多用途を考えて設備を設置してほしい。
- 大規模な料理教室をするようなキッチン施設はいらないが、家庭にあるような台所機能があれば、災害時など様々な場面で役に立つ。
- 保健休養室の貸し出しをしてもよいのではないかと。囲碁や将棋など少人数の利用には適している。
- 和室はお花、お茶、民謡などで利用できるよう1部屋ほどあればよい。
- 貸室は、20人前後が集まれる会議室があるとよい。多目的に使える。
- 5年後のニーズが変わるかもしれないので室の構造は検討。(例えば、可動間仕切りや簡単に取り外せる壁など)
- 座卓は膝などに負担がかかるのでテーブルやイスがよい。

ホール入り口の雨漏れは、雨どいを、設けてバケツは置かないようにしてもらいたい。

- ホール入り口の雨漏れは、雨どいを、設けてバケツは置かないようにしてもらいたい。

改修にしろ、建て替えにしろ、多目的ホールはスポーツや文化、イベントなど様々な地域活動に利用されており、地域の中心にある拠り所として、現状のような広いスペースがあった方がよい。

- 改修だろうが、建て替えだろうが、多目的ホールを残すことが重要である。
- 延べ床面積がこれだけ広い多目的ホールがある施設は他地域にはない(地域の拠り所である)。
- 地区の中心にあって、避難所として、あるいは文化拠点として必要である。
- 地域の拠点であることを考えれば、広い面積を使えるイベントスペースは必須である。
- 多目的ホールはスポーツ、イベント等のためにも現状の広さのホールは絶対に必要である。
- 現在もスポーツで使用している住民が多い。
- 現状のまま存続してほしい。やろうと思えばバレーボールもバスケットもできる。
- これからも演劇など様々な文化イベントの開催が可能で、利用価値がある。
- スポーツでの利用や地域イベントの会場として利用しているので廃止は避けたい。
- 多目的ホールの利用率は高いことから建て替えで多目的ホールを廃止するのは反対だ。

多目的ホールをより幅広い年齢層の人が柔軟に利用できるよう工夫する必要がある。

- 多目的ホールは地域で重要な施設で、これからの子どもや若者の多くが利用できるやり方を考える必要がある。
- 多目的ホールをネットで仕切り2面にして1面ずつ貸し出すことを可能とすることで利用の拡大につなげてほしい。
- 多目的ホールは是非残してほしい。現在老人クラブのスポーツ大会として地域の高齢者150人から200人が一斉集う。以前はもっと広い中学校の体育館を使用していたが駐車場の問題で使えなくなった。高齢者スポーツ大会は中学校の体育館が使えればそちらでもよい。

改修案は部屋数が多く、広いスペースが確保できるのに対し、建て替え案は面積が3分の1程度に減築されるため、財政的事情とこれまでの話し合いで出された「学習スペースの確保」などのニーズを両立させることは難しいのではないかと。

- 用途によって使う部屋が固定されていると使いやすいので、改修案は、部屋数が多く広いスペースが確保できる点が良い。
- 建て替え案では面積の規模縮小が著しく(概ね1/3程度の減築案)、活用範囲が狭まりそう。改修案に活路がありそう。時代の流れも維持修繕延命が主流だ。
- 規模縮小建て替え案ではグループメンバーが出している様々な提案(図書室残す、学習スペース、プレイルーム、ジム、店舗や宅配 BOX 併設)を吸収することは難しく、財政的な事情と住民の希望を両立させる上では改修案の方がメリットは大きい。

利用率の低いところは縮小統合には賛成。建て替えは必要な機能を取り入れた上で、面積を縮小するとよい。

- 利用率の低いところは縮小統合には賛成。建て替えは必要な機能を取り入れた上で、面積を縮小するとよい。

配布資料の改修イメージを見て、リフォームでもきれいになると分かったので建て替えでなくともよい。リフォームは必要な部分のみリフォームすればよい。一部建て替え、一部リフォームなど、バリエーションがあるといい。費用も比べてみたい。

- 配布資料の改修イメージを見て、リフォームでもきれいになると分かったので建て替えでなくともよい。リフォームは必要な部分のみリフォームすればよい。一部建て替え、一部リフォームなど、バリエーションがあるといい。費用も比べてみたい。

A棟の建物を壊して駐車スペースを広げるほか、子どもたちの顔が見え交流を生むため、ロビーや貸室などのそばに学習室を配置するようなリフォームをしてはどうか。

- A棟の市連絡所休憩室、大江山コミ協倉庫、市連絡事務所事務室の建物を壊して駐車場ス

ペースにして、ロビースペース、図書室、大研修室を一体的にリフォームし、市連絡事務所と大江山コミ協事務室を移し、そばに学習室を整備してはどうか。子どもたちの顔が見え交流も生まれる。

多目的ホールは残して改修し、他の部屋は3階建てに建て替えて、防災拠点としてエレベーターも設置する、改修と建て替えの折衷案を提案する。駐車場の狭さや分かりづらさも解決される。

- 多目的ホールは残して改修し、他の室は3階建ての建て替えで防災拠点としてエレベーターを設置する、改修と建替えの折衷案を提案する。
- 多目的ホールのあるB棟だけを残し、他の機能は新築建て替えの中に入れ込むことが、現時点では最良の方法ではないかと考えている。こうすることによって、駐車場が狭い、裏手の場所がわかりにくいという問題も自動的に解決する。

3階建てになればエレベーターは必要になるが、新潟市の資料を参考にすると、そこまでお金をかけて設置しなくてもよいと思う。2階建てのままか、1階の部屋を活用することで利用上は問題ない。

- エレベーターはあるに越したことはないが、なくても仕方ない。
- そこまでお金をかけてエレベーターを設置しなくてもよい。
- 2階の部屋でなく、高齢者や足の不自由な方が使いやすい、1階にある研修室を会議などに活用する。
- 使用する人は高齢者が多いため、3階建てになればエレベーターも必要になるが、コストも考えると2階建てであればエレベーターはなくても利用上の問題はない。

土地は広いので、平屋で建て替えもできると思う。バリアフリーにやすく、エレベーターがいらないので低コストで済む。

- 土地は広いので、平屋で建て替えることもできると思う。その方がバリアフリーの問題も解決

しやすくエレベーターがいないので低コストで済む。

体の不自由な方や高齢者の利便性を考えると、2階建てでもエレベーターは住民へのサービスとして必要である。公共の施設として公平性が需要ではないか。簡易エレベーターでもよいので設置してほしい。

- 体の不自由な方や高齢者の利便性で2階建てでもエレベーターは住民へのサービスとして必要である。公共の施設として公平性が需要ではないか。
- 簡易エレベーターでもよいので設置する。
- 3階建てにするならばエレベーターは必須。
- 多目的ホールは残して改修し、他の室は3階建ての建て替えで防災拠点としてエレベーターを設置する、改修と建て替えの折衷案を提案する。

多様な人が利用しやすいバリアフリー機能、多目的トイレは整備してほしい。

- 多様な人が使いやすいバリアフリー機能の充実を求めたい。
- バリアフリー化は必須である。
- 施設内はスリッパを廃止して土足で使えるようにしたい。そうすることでだれもが使いやすくなる。
- 現在も多目的トイレは設置しているが、今後どういった施設になるにせよ、必ず設置してほしい。
- 現状の個室トイレは狭いので、手すり付きの広いトイレスペースにしてほしい。イベント時は混むので、個室の数を利用者数に合わせて増やしてほしい。

図書室は使い方が分かれば使いたいのので残してほしい。

- 図書室は使い方がわかれば使いたいのので残してほしい。

大江山の歴史、親子で読める絵本、雑誌類などを配置し、他の書籍は市の貸し出しシステムが利用できればよい。

- 大江山の歴史、親子で読める絵本などは図書として残す。
- 更新の早い雑誌類を中心に配置し、他の書籍については市のシステムを使って受け取り・返却ができればそれでよい。
- 書籍の検索や予約など IT などの活用できる機能は必要。

農改センター内で、ネット利用の本の貸し出しができるようになるなら、図書室をなくすことは理解できる。

- 書籍はスマホ対応で調べられるのであれば取り寄せでよい。
- 今ここにある図書館は、他の図書館と同レベルの本の貸し出し機能を持っていない。ネットを利用して本の貸し出しができる機能を持たせた上で、この図書室をなくすというのなら理解できる。

若者や子どもたちの利用率を上げるために、若い世代のニーズを把握し、図書室や交流室にマンガを置いたり、学習スペースや親子の居場所を整備したり、運用を工夫する必要がある。

- 若者や子どもたちの利用率を上げるために、図書室や交流室にマンガを置いてはどうか。
- 学習スペースがあれば子ども世代の利用も見込める。
- 学習室や親子の居場所などの運用やそのためのしつらえなどは地元で運用をもっと考える必要がある。それによって利用者を増やすことにもつながる。大江山全体のニーズを把握する必要がある。全体のニーズは指定管理なりコミ協などから発信して考えていく必要がある。

子育て世代が利用しやすいように、プレイルームや授乳室の設置など、子育て機能を充実させてほしい。

- 子連れにも使いやすいようにプレイルームスペースを作る。
- 子育て機能(子育て中の母親たちが集える場所)の充実。

- 授乳室の設置(交流スペースの中にカーテンで仕切られる空間を確保するだけでいい)。

柔軟に使える部屋を確保し、多様な利用者が集まる工夫ができるとうい。廃墟のような部屋があり、人が寄りたくない状況を変えたい。

- 利用者の使い方の自由度を上げて、例えば若い方の店舗展開等、人が集まる工夫ができるとうい。現在も廃墟のような部屋があり、人が寄りたくない状況を変えたい。行政主導では形骸化しやすい。
- 沼垂商店街の農産物バージョンのようなことができるとうい。
- ネットショッピングが増えているので宅配 BOX 受け取りサービス(PUDO ステーション)を設置すれば立ち寄る人が増える。使っていない部屋(スペース)の有効活用。
- 健康志向の高まりから、トレーニングルーム(マシンジム)があれば利用する人は多いと思う。周辺の体育館にもあるがいつも混んでいて使いづらい。

津波、洪水の避難所機能としての3階建ての建て替えは必要ない。土地が広いので平屋で建て替え、空いたスペースに防災機能も盛り込んだ多目的公園を整備してはどうか。

- 防災機能については他の施設で確保できているので問題ない。
- 洪水災害時に備えて3階建てに建て替えても、避難可能人数は少なくなるので、津波、洪水の避難所機能は求めない。
- 土地は広いので、平屋で建て替えることもできると思う。その方がバリアフリーの問題も解決しやすくエレベーターがいらないので低コストで済む。建て替えた上で、空いたスペースに防災機能も盛り込んだ多目的公園を整備してはどうか。

農改センターは災害時に配慮した改修、整備が必要。備蓄倉庫やシャワー設備を整えるなど防災拠点としての複合施設にするべきだ。

- 農改センターは災害時に配慮した改修、整備が必要、防災拠点としての複合施設とするべきである。

- 防災機能の充実。具体的には地区に災害時の備蓄機能はどこにもないので、小中学校の3箇所分の備蓄品と必要設備を、農改センターに集約して設置することで、小中学校の避難所に迅速に配送できるようにする。
- 災害時の備蓄をする倉庫や部屋があるといい。
- 災害時にも使えるようなシャワー設備があるといい。
- 災害時に炊き出しができる調理室や、大人数が一時避難できるスペースは必要。農改センターを災害時の一時避難所として活用できるとよい。

避難所機能を合わせた建て替えが一番良い。建て替えるときは地盤の高い水害の心配のない場所に建て替える。

- 避難所機能を合わせた建て替えが一番良い。
- 建て替えるときは地盤の高い水害の心配のない場所に建て替える。

現在2ヶ所に分かれて使いづらい駐車場を1か所にまとめてほしい。

- 建物全体を改修するか建て替えるかではなく、多目的ホールのあるB棟だけを残し、他の機能は新築建替の中に入れ込むことが、現時点では最良の方法ではないかと考えている。こうすることによって、駐車場が狭い、裏手の場所がわかりにくいという問題も自動的に解決する。

◆2.老人憩の家

老人憩の家は利用者が少なく、駐車場もなく利用しづらい。今後、利用が増える見込みもなく、居場所機能は各集会所で吸収できるので、もっと早く廃止してもよいのではないかと。

- 利用者が少ない。駐車場もなく利用しづらい。今後、利用が増える見込みもないので、もっと早くに廃止してもよいのではないかと。
- 老人憩の家の居場所機能は、各集会所で吸収できるので農改センターに移す必要はない。

寄付をして設立した人々の気持ちも大切に、簡単に廃止ではなく、管理費などを見直して、建物や風呂を修理しながら少しでも寿命を延ばして。

- 支出の多くの割合を占める管理費など見直して、建物、風呂は修理しながら少しでも長く使えるように建物・設備の寿命を伸ばしてもらいたい。
- 憩の家設立時の寄付による建設など当時の人達の気持ちは大切にすべき。簡単に廃止ということだけでなく大切に使うといけない。

◆3.その他

◎住民の生活に関わる文化、教育、生涯学習などの活動を支える公民館機能をもっと充実させたい。

- 施設はできても主事のような企画・運営を直接的に担当する人がいないと地域づくりは進まない。
- 現在は公民館としては何も機能しておらず、地域づくりに関すること(文化とスポーツの祭典とか桜祭り等の大きなイベント等)は無償でコミ協が担当している。市は支援職員制度を廃止の方向で考えているため、今後はますます公民館機能が必要になってくるように感じている。その辺のことを市の方にも理解していただき、亀田の公民館のサテライトとして一人回していただくなどの対応をお願いしたい。

◎全体的に機能縮小の話ばかりになり、建設的な議論がしづらい。第1回目のような夢のある意見交換ができるとよい。

- 第1回目の時のようなもっと夢のある意見交換の場がほしい。
- 配布資料の「会議の進め方」のところに「前向きな議論をお願いします」とあるが、そもそも話し合いのテーマが施設削減・縮小という後ろ向きなものなので建設的な議論がしづらい。第1回のような夢のある議論ができるとよい。

◎今回のワークショップを機に未来を見据えたまちづくりプランが必要だ。この地区は人口が増えているメリットを活かして施設利用を考えたい。

- 未来の視点で今を見る(考える)ことが大切。
- 大江山地区は人口減少時代にあっても人口がわずかながらでも増えている地域である。この地区のメリットを活かしたい。
- 若い人が増えているメリットを活かし、若い人たちが使いやすい施設にしていくことが大切だ。
- 大江山は人口が増え、コミュニティが広がる可能性があるのに、施設を縮小するのはなぜか？新潟市の考えを聞きたい。
- 箱(施設)を考えることは大事だが、中身も大事。人口は増えているが、新旧住民の交流や、婦人会、子ども会がないところもある。地域コミュニティの形成が大切だ。

◎農改センターはPRに力を入れ、Wi-Fiの導入や地域住民の利用を優先するなど、利用率向上に努めるべきである。

- 農改センターは利用の仕方が周知されていないので利用率が上がらない現状がある。もっとPRすべき。
- 農改センターの多目的ホールを地域外の卓球サークルが抑えてしまって利用できない時がある。利用は地域住民を優先にするべき。
- 一般の人も利用できるWi-Fiを導入すべき。ネット時代には必須のサービスだと思う。

◎老人憩の家や各自治会館など高齢者が歩いて行ける距離にある地域のお茶の間などの居場所は必要。

◎災害内容によって避難所や避難経路が異なるが、市の想定通りに避難できるのか確認して検討してほしい。小中学校は指定避難所となっているので、災害時は教室の開放を間違いないくしてもらいたい。

- 現在の3か所の避難所への避難は災害内容によって避難の方向が違う。災害時は近くの施設に避難する。近くの団地からも避難してくることが想定される。市は災害の内容によって、

実際の避難の仕方が想定どおりなのか確認して避難所を検討してもらいたい。

- 小中学校は指定避難所となっているので、災害時は教室の開放を間違いなくしてもらいたい。

◎新しい施設は全て有料化する。

◎公共施設の予算配分に旧市内と旧市外の間不公平があるように感じる。旧市外の方が手厚いのではないか。

◎改修や建て替えの青写真がほしい。